

苫小牧市医師会

医師

永倉 靖久

脳卒中のリハビリテーション

最近、高齢者の方の「寝たきり予防」で脳卒中の方のリハビリが、医療の面でも社会の面でも注目されています。

リハビリには皆さんが思われている「機能アップ」のほかに次のようなことが注目されています。

一、早期リハビリ

脳卒中になつて数日後からリハビリテーションは開始しま

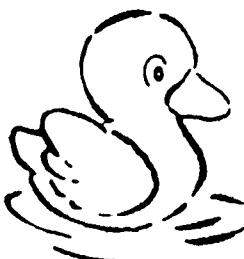
介護機器で無理なく生活

三、「介護機器」の利用
歩けないと自宅で生活ができる

ところが、最近では介護用具・自

助具などで自宅での生活が無理なくできるようになってきています。これらの用具の使い方・設置などを指導援助するのもリハビリスタッフの役割の一つです。退院前に「家庭訪問」をさせていただいて、家族の方と自宅の準備をさせていただいています。

リハビリ病院を退院して「はい、もうおしまい」では、ふつうの人では三ヵ月あれば歩くのが危なつかしくなったり、なかには「寝たきり」になってしまふ方もおります。退院後も、自宅でリハビリを続けられ、外来で定期的に通院され、機能が少しでもダウンしたら「短期リハビリ入院」で機能を戻していく必要があります。地方の方では地元の医師や保健婦さんが、外來やレクリエーションをまじえた「リハビリ教室」などで、リハビリ病院と連絡されておられることがあります。



- す。
- ①まひが戻るまでの間、筋力・体力を低下させない。
- ②関節を動けるように保つ
- ③心理的不安の解消
- 二、「生活のリハビリ」
脳卒中になると全くもとのよ
うには戻りませんが、リハビリ
をすれば数ヶ月でほぼ最大のと

四、退院後のリハビリ